

第4回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

- ・日時 平成27年9月9日（水） 19：30～
- ・会場 岩村振興事務所 大会議室
- ・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭
こども園代表 千藤まゆみ
地域自治区代表 西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人
安藤仁志、川上貞夫、大島将官
中学校PTA代表 近藤祐司、松下雅昭、成瀬浩司、横光基
小学校PTA代表 加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三
こども園保護者会代表 森井清、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔
恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好
総合計画審議会代表 西村貢
行財政改革審議会代表 柘植麻美
地域自治区会長会議代表 樹神和昭
振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、大島秀治（代理）、熊谷浩
教育委員会 大畑雅幸
事務局 門野幸次朗、岡田庄二、西尾克子、梅村浩三、石田祐一、山田耕司、度會将仁
- ・欠席者 地域自治区代表 山本純、安藤良一
中学校PTA代表 伊藤昌治
小学校PTA代表 小川道義
こども園保護者会代表 小木曾耕司
事務局 土屋育代、安藤一博
- ・委員会内容
 1. 開会挨拶 委員長、教育長
 2. 議事
事務局 : 議事に入ります。
委員 : 議事の前にお願いがある。前回ここへ来たときに、再編にあたって配慮すべき事項ということで通学時間と通学方法の2つだった。グループ討議のときに思ったことは、再編で配慮することはこの2つではないという意見が出たが、そのことは今後どういう予定で話されていくのか。会の案内に議題は書いてあるのが、事前に資料をいただけるとありがたい。1時間半の中で議論していくことは大変。

何とか事前にいただければ自分の考えを予習したり出来る。先日、上矢作で保護者宛にアンケートを取った。期待すること、心配することについて保護者からしか出ないような具体的な意見が出ている。先程教育長から、「ここにみえる方は代表ですから、状況を反映させたいので所属団体の皆さんの意見を聞いてきてください。」とたびたび言われるが、なかなか意見を聞く時間がない。意見を集約するとか、まとめる時間がほしい。時間がない中で、今回は望ましい学校環境についてと計画されているが、どういう内容が検討されていくのか、ここへ来てみないとわからない。今後の流れを教えてくださいたいのと、会議の終わりに次はこのようなことを行うなど知らせてもらえないか。

事務局：資料については、すべての資料をお渡しすることは難しいと思うが、内容についてはお渡しすることは出来ると思う。

委員長：それでは、議事に入ります。

(1) 通学方法、時間について（第3回ワークショップから）
事務局より資料に基づき説明

委員長：場所が確定していない中で、明知鉄道、スクールバスなどを含めて、基本的にこういう風に考えていったらどうか。こういうことはどうしたらよいのかなど、発言をお願いしたい。

委員：上矢作の現状は、保育園児が飯田洞からスクールバスに乗るが、保育園に行く前に木の実へ廻って保育園に行っている。乗車時間は45分ほどかかっている。それは、スクールバスが少ない事や、地域柄折り返すため時間がかかっている。上矢作の地域は、大きなバスでなく小型のバスが何本もあったほうが良いとか具体例を出していただいたほうが良いし、各地域には現在も遠いところから通っているので、統合すればもっと時間がかかる。時間があれば再編委員会で現地視察などを行い、どうしたら良いのか検討してみるのも良いと思う。

教育長：委員会で視察するのは、現段階でする必要があるのかということ。先程提案したように交通機関に乗る時間は30分程度、全体では1時間程度など、学校に通っている時間が1時間以上の生徒は、現状の時間を越えないなど、そういう線を決めていくのがこの委員会だと思う。

委員：場所が決まっていないので、スクールバス、明知鉄道を使う、使わないで違ってくるので一概には言えないが、串原の生徒は長い時間バスに乗って通っている。その時間は越えない配慮は必要だと思うし、自主運行バスを使っていくのは不可能だと思う。小さなバスでも直通で学校へ行ける方式にしないと難しい。ある程度の場所を示して検討する必要があるのではないかと。何通りかシミュレーション

を作って、議論していかないと良い意見がでないと思う。

委員：飛躍した意見かも知れないが、この再編委員会はあり方検討委員会から卒業して「再編するのだ」という方向で進めている。場所の絞りだしを考えていっても良いのではないか。

委員：この資料を見ると公共交通機関、自主運行バスも難しいのでスクールバス1本でいくということになる。スクールバスの利用の検討をするには、ある程度の仮想地区でシミュレーションをしていく必要がある。

委員：各地域で地形的な事情がある。仮定の場所を決めてから議論をしていく方が早いと思う。

委員長：場所がわからないと考えようがない。ある程度絞り込んで合意できればいいと思う。

委員：学校の場所はすごく大事なことだが、地域で学校に通う生徒がどこにいてどういった通学をするのかを地域でシミュレーションを行う。こういう時間をつくると通学方法が出てくると思う。

委員長：委員の意見は、場所を想定してスクールバスなどで、どのように通学するなど各地域で提案をしていただいて絞り込んでいくということはどうか。

委員：今まで疑問に思っていることを全て話し合ったと言われたが、この委員会で議論されていない。各地域の説明会での不安等の意見はこの場で話されていない。配慮する事項が通学方法と通学時間だけで、これだけが配慮すべき事項なのか。もっと大きなことから配慮すべきではないかと思う。地域住民との関係もあるがそういう意見があがってきていない。不安を残したまま通学方法、通学時間を議論するのはいかなものかと思う。

委員長：具体的にこういうことが問題ではないかということをお聞きしたい。委員の皆さんに諮ってそのことを検討しようということになれば、そのことを検討していく。

委員：地域は何を不安に思っているのかが、この委員会にあがってきていない。地域の説明会の内容がわからない。地域懇談会、小中学校PTA役員、保護者の説明会での質問も出ていたが明確な回答もされていない。例えば、学校と地域との関係、統合してからの生徒の心のケア、いじめの問題があると思う。

委員長：この委員会で全て解決したり、例えば、いじめの問題を統合した中学校でどのように考えていくか今は言えないと思う。

委員：しかし、親として大人として考えていかなければいけないと思う。

委員：あくまでの地域の代表なので、このメンバーだけで決めていくことではない。先ほど再編するという目的で進めてもいいのではというのはあまりにも軽はずみな

発言で、地域の意見が上がっていない。現地視察をしたが感想はどのように生かされているか。今の中学校が不憫でどうしようもない。どうしても1校に統合してもらわないと困るというような意見や感想を読んだときに何を感じられたのか。

委員長 : 今の意見について、どのように考えておられるか。

委員 : 今軽はずみだと言われたが、あり方検討委員会としては最終的に1校が望ましいと出ているので、その結論のことを話した。意見であって軽率ということは間違いだと思う。地域のことを言われたが、地域には小学校は残る。学校が全部なくなるわけではない。親の気持ちは少しでもいい学校に入れさせてやりたいと望む。地域に学校がなくなるという考えもあるかもしれないが、僅か3年間で、人生80年の中で高校になればどこかに出なくてはならない、3年早くなるだけのことである。そこは大きな目で子どもを見てあげるべきではないかと思う。

委員 : それは違うと思う。この3年は義務教育で、高校は義務教育ではない。

委員 : 高校も今、義務教育化されようとしている。

委員 : 義務教育の3年と選んでいける高校の3年は違うのではないか。そこを早いだけと言ってはいけないと思う。

委員 : そういう親もいるかもしれないが、私のような親もいることを知っていただきたい。

委員 : 3年間と言いますが、串原は小中一貫校なので、地域と結びついているという事実もある。

委員 : 吉田も小中一貫校だった。昭和50年に吉田中と明智中が統合した。統合には色んな不安はあったが、事前に交流会を催して大きな支障はなかった。去年は吉田小が明智小と統合したが、親が大勢の中で育てた方が良いという発想の基に再編した。絶対に学校を残さなければいけないということは必ずしも正しいかどうかということを考えていく必要があるのではないか。

委員 : 先ほど言われたような問題点もあるが、再編委員会は色んな問題が出てきたら議論していく委員会である。今は通学にどういう問題がおきるのか、どういう方法があるかを検討する。スクールバスを利用して生徒が通うことで問題点が出れば議論していく。まずは一つずつクリアしていく。地域論などを言い出したら進まない。問題点をシミュレーションしてクリアしてはどうか。

委員 : 通学だけではなく、一番心配なのは、災害の時や警報が出た時のシミュレーションをしなければいけないと思う。

委員 : これから考えていくことは、ハード面はスクールバスの時間、学習環境など、ソフト面は教育内容のふるさと学習などが統合したときにどの様になっていくか。

どの様に継続するのはソフト面として大事なところである。いじめ、不登校など再編する時には総合的に考えなければならないと思う。各地域での説明会ではメリットだけではなく、再編には、負担をかける、リスクを負っていくことも話していかないと良いところばかりの情報を説明していくととんでもないことになるのでデメリットも出す。上矢作でアンケートを行ったがクラブ活動の時の送迎や警報時の対応について不安の声がある。

教育長 : 昨年度のあり方検討委員会は理想を追求した。これを具体的に事務局の示す資料を基に協議していただく事がこの委員会の目的である。他にも解決しなければならない課題は沢山ある。何を一番大事にするのかを委員の知恵と工夫、行政で出来る経済的な援助などを擦り合わせていく。5地域の委員の意思統一をして、再編委員会の答申案に、自分の地域は参加するのかどうかを意思の確認をしていただく場面が必要だと思う。これを答申が固まった時点とするのか、答申の後にするのか、この委員会で決めていただく。地域によっては、賛成も若干あるが反対の方が断然多いからこの話には賛成できないというような地域が残念ながら出る可能性があるが、参加するにしても参加しないにしても、この後の地域で育つ子ども達に責任を負わなければいけない。ここは大事なところで、自分の価値観や自分の願いだけではいけないと思うから皆さんの意見を聞く。中学生の時期に何を最優先にするのか。

委員 : 皆さんそれぞれ思いがある。教育長の言っている事もよくわかる。ここでもう一步辛抱することがないと地域の人はいろいろな考えの中で恵南を割ってもいいのかという考えもある。できることなら恵南地区1つになって一番良い方法を見つけ出していく。議論の順序を考え直す必要があると思う。通学路の話だけでいくと現行のコミュニティーバス、明知鉄道、スクールバスを一緒にする発想を大胆に切り込んでいく。バスの再編も考えていく必要もある。恵南の魅力ある学校づくりには例えば、明知鉄道に通学列車が走ってもいいのではないか。大きな視点も取り入れた考えも持つ。通学バスだけでは解決しないと思う。現在でも通学に時間がかかっている生徒もいると聞いている。統合すると距離が長くなると不安が出てくるので通学路の安全確保をとらえながら考えていく。不安が重なっているから反対というわけではないと思う。いろいろな形の期待がある中で、理想とする形がなかなか見えてこないから不安が先行する。総合計画で450人を確保ということには課題がある。小学校を残し維持するという大きなコンセプトである。統合した時にクラブ活動等が例に出されているがそれだけではない。それぞれの中学校の特色を正しく評価して、その上に立って新しい学校をどうするのか

ということになれば、自ずから地域の伝統文化、地域の関わりは新しいものが出てくると思う。惠南を割るようなことなく、1本にしていくことが必要だと思う。そのような方向で考えていけたらと思う。

委員：この委員会は昨年のあり方委員会の結果を踏まえ、現地視察も含めた再認識を先々月まで行ってきた。自分は統合が不可欠だと思う。教育や学習を大きく制約しないような通学方法を実現させる必要がある。資料にある駅から1kmとあるが、これが1.5kmになると学習条件を大きく制約するのか。そうではないと思う。10分は良くて15分はだめということは本当か。学習や教育の制約しない通学条件は確保しなければならない。例えば、通学列車、通学コミュニティバス、デマンドバスなど多様な交通手段は認可ができる。そして教育の中身をしっかり議論することが大切である。同じ教科の教員の先輩後輩がいることや、専門教科の先生が複数いるために複数学級は必要だということ。ここは絶対譲ってはいけない。小学校と地域の問題と、中学校と地域の問題は必ずしも一緒ではない。主語をはっきりさせる必要がある。また財政の問題はシビアである。教育委員会の財産の枠をこえた議論をすると財産の総合流用などにより、金銭的に少なくて済む統合になる。それと現状を追認識したのは今の中学生で、5年後、10年後に、入ってくる中1、6年生、5年生は改善しなければならないことがわかった上での教育状況を続けることになるので、統合するのであれば極端に言えば明日でもすべきだと思う。今日の中学生を見て問題だと思ったら明日でも手を打つべきだと思うような議論の結論の付け方が必要。先送りにするということは、対応しない年齢があるということをよく理解しておいてほしい。

委員長：委員から今日、具体的に通学方法ではなく、教育の事を話し合っていくべきだという話があったが、立ち戻って検討するのか。その部分も解決していくが、同時に日程的にも前に進めていくのか。皆さんの様に考えますか。

委員：こども園保護者の代表として委員会に参加しているが、こども園の保護者は統合が直接関わってくるので細かい事を聞かれる。提言の趣旨に添って行うことは聞いているが、保護者に言われる事とこの委員会で議論することはギャップがある。保護者が本当に聞きたいことは細かい事であって、ここで話せないのであれば、教育委員会で細かい事を別で話合っ保護者に説明する会をつくり、そこで説明していただきたい。私はそこに聞けばわかると言えるような立場にしておきたい。

委員：明智では小学校、中学校の役員の方、地域協議会に教育委員会から来ていただいて説明会をしている。教育委員会へ要求されたらどうか。

委員：これからは、説明会を最優先に教育委員会と調整していくといいと思う。

委員：答申の時期にこだわると、保護者の不安や課題が残るため、住民や保護者の理解を得ることを念頭に考えていかなければいけないと思う。

委員長：統合するのに一番問題になっているのは何かということをはっきりと明らかにしていただくと、それについて委員会で協議することが出来ると思う。

委員：それは地域説明会に来ていただいたときに充分出ている。串原のPTAでまとめている。そういう意見について話し合い場を設けないといけない。教育委員会から保護者や地域が納得できる回答がいただけていない。

委員：昨年のあり方委員会のことが地域におりていない。串原にはその内容が全然きていなかった。

教育長：串原の地域懇談会で前任者が「誰のための統合か。」と言われた。1年間委員としてやってこられた方がそういう発言をされた。土俵の上に乗っていなかったので昨年度の経緯などは委員には十分に伝わっていなかったと思う。

副委員長：教育委員会は各地域の説明会で、賛成、反対の意見を聞いて相対的に判断してこの再編についての提言書がまとまっている、これをふまえて議論をしていかないといつまで経っても前に進んでいかないのでご理解いただき、次に進めてはどうか。

委員：問題は地域、保護者の意見、思いを聞いていない。保護者は期待することもあるが不安を持っている。今は通学時間等のハード面を議論しているが、再編でどうい学校ができるのか議論されていない。地域の特色を発展させていくイメージができない。地域の意見を聞いてきてほしいと言われるがそれができているのか。

委員：望ましい学校環境には、地域の絆をいかに学校で取り入れていくのが重要である。

委員：今後どのような内容を検討していくのか具体的にさせていただいた結果、結論が出ると思うので、この会で納得いくまで論議を深めるべき。

委員長：いろんな意見がでたが、次の議事に入ります。

(2) 望ましい学校環境について

事務局より資料に基づき説明

委員：ソフト面の望ましい環境についての資料はないのか。

事務局：今回は施設面ということで資料を出しているが、今後そういう資料も必要と考えている。

委員長：この資料は持ち帰っていただき、また議論したい。

委員：今後の計画についての回答はないのか。

委員：スケジュールも事務局は適当に行っていない。項目に合わせて進めている。これ

から3ヶ月については、今までの審議内容について詰めて、答申をする流れになっている。

副委員長：委員からの意見をしっかり受け止めて会議を進めていきたい。先程も言いましたが、あり方検討委員会の提言書を前提の上に議論しないと会議が進まないなので、その点を考えて議論していただきたい。

21：20 終了